

部門/会場	リーダー氏名	サブリーダー氏名		
10階 1008号室	パストガバナー 高島 凱夫	次年度米山奨学委員長 地区研修委員	古城 紀夫 五味 千秋	千里 大阪心斎橋
議事録作成者	担当SAA 辻本 希世士			

開会：(15時35分) 司会：田中隆弥 副委員長

発表者：若林紀男 パストガバナー

【記録内容】

本会議における池間先生の話は初めて聞くようなことであり、感動というよりも今一度何かを考えないといけないと感じた。米山奨学制度は、来年60年目を迎え、今まで約2万人の留学生を受け入れてきた。60年前の奨学生は今80歳になるが、皆さん母国で活躍されている。我々のことを「日本のお父さん、お母さん」と言ってくれることに充実感を覚えるので、是非とも積極的に参加していただきたい。

発表者：古城紀雄 次年度米山奨学委員長

(15時45分)

【記録内容】

- (講演) 1. 日本のロータリー運動と米山奨学事業  
 2. 元奨学生達のその後の活躍  
 3. 事業の原動力としての寄付の現状  
 4. みなさんからの寄付と地区への奨学生配置数  
 5. 奨学生の選考とクラブ配置手順  
 6. 松本(次年度)ガバナー年度の活動・運営方針と本事業

(質問)

(豊中RC)

Q. 複数担当制度の場合、理系の学生等は多忙で例会出席が困難ではないか？

A. 指導教員に説明し、理解を得るようにしている。また、必ずしも毎週複数のクラブの例会に出席することを義務付けるものではない。

Q. 必ずしも例会でなく、カウンセラーと会うことで代用するなどできないか？

A. なるべく例会に出席して他の会員とも接していただきたいが、他の例会の行事への出席で例会出席の代用にすることは考えられる。

(池田RC)

Q. 奨学生を各クラブに配置する場合の優先順位は？

A. 寄付状況を数値化している。

Q. 寄付状況で決めるとなると、奨学生を見ないから寄付もせず、より配置されづらくなるという負のスパイラルにならないか？

A. ご指摘の問題点はよく理解している。とにかくまずは一度体験してもらえるように手当てしようと考えており、複数クラブによる担当制度を設けた理由もそこにある。

(八尾RC)

Q. 最近、「奨学金がなければ留学できなかった」という事例が少ない。先進国からの留学生に＋アルファの金銭的余裕を与えないようにすべきではないか？

A. 「奨学金がなければ日本に留学できない」という事例自体がほとんどない。その意味で、今は学業支援、交流推進等が主たる目的にシフトしている。また、少ないながらも海外から直接の申込みによりご指摘のような方を受け入れるケースもあるが、日本語ができない場合が多く、会員との交流がうまくいかない課題もあるようである。

発表者：高島凱夫 パストガバナー

(16時35分)

【記録内容】

先ほどの質問にもあったが、本事業の目的は、貧困救済から学業優先にシフトしている。ロータリー学友会を皆さんで育てていってほしい。

発表者：五味千秋 地区研修委員

(16時40分)

【内容】

本事業は国際奉仕と青少年奉仕の融合であり、全国レベルの仕組みを有する制度でもある。本事業を活かすも殺すも皆さん次第なので、是非とも会員に本事業のよさをお伝えし、また、奨学生を例会だけでなく色々な行事に参加させてほしい。

閉会 (16時50分)